

お盆の思い出

駒澤大学名誉教授 佐々木宏幹

仏教企画通信

発行日 | 平成28年6月1日

44

発行所 | 有限会社 仏教企画
〒252-0113
神奈川県相模原市緑区谷ヶ原2-9-5-5
Tel.042-703-8641
Fax.042-783-0989

発行人 | 21世紀の仏教を考える会代表
（株）仏教企画代表 藤木隆宣

Email | fujiki@water.ocn.ne.jp

「お盆」とは

言うまでもなく日本人にとって「お盆」は「お正月」と並んでとくべつな国民的行事である。

なぜ「とくべつ」かという点、この二つの行事の間は地方だけではなく大都市においても仕事は休みとなり、人びとは故郷に帰るのが慣行であり、そのため交通が渋滞をきたし、大きなニュースになるからである。

周知のとおり、今日ではお盆は仏教（お寺）の行事であり、他方お正月は神道（神社）の行事であるとされ、お盆には死者・ご先祖を迎えて供養するのたいして、お正月には歳神（歳徳神）の来訪を祝うものとされる。

ところが古くはお盆もお正月もひとしく一家・一族の「ご先祖」をまつる機会であった。

きであるとして、特別な食物や供物をご先祖に捧げるところが少なくない。

地方では今日でもふだんと違うご馳走がでると、「お正月とお盆が一緒にきたようだ」と口にするのは、両者の浅からざる関係を物語っていると言えよう。

「お盆」の「盆」は物を載せる器を意味し、他人に物やお金をあげるときにはお盆に載せて差しだすのが礼儀であった。しかし、仏教でいう「お盆」はほぼ次のような意味をもつ営みである。

「盆」は古代インドの文章語であるサンスクリット語のウランバナ (ullambana) の音写語である「盂蘭盆」に基づく語であるとされる。「ウランバナ」は「倒懸」（さかさ吊りの苦しみ）と漢訳された。

「盂蘭盆」の語は『盂蘭盆経』に初出するとされるが、この経典をめぐって研究者たちの見解は一つではないようだ。

最近では「盂蘭盆」の原語はイラン語系の死者を意味するウルヴァン (urvān) であり、霊魂の祭祀を指すとともに収穫祭を意味したが、イラン系のソグド人が中国に進出したことにもなつて中国に伝えられ、稲作農業地域の収穫祭となつたと考えられているようである。



中国人と日本人、お盆に託した意義

あらためて『盂蘭盆経』に説く陰暦七月十五日（自恣）について深めてみよう。

十五日（自恣）に、修行者（仏僧）たちに食物などの布施をすれば、その功德により母は救われるだろうと言われ、目連はそのとおりにしたら母は無事救いだされたという。

この説話は「目連救母説話」として知られるが、肝心の功德は陰暦の七月十五日に修行者（仏僧）に供養すれば、その功德により死後に苦しんでいる人たちを救いだすことができるというところにある。

アメリカの中国宗教史学者ステイヴン・タイザー (Stephen F. Teiser) は次のように述べている。要点のみ記す。

一般に夏安居といえ、インド仏教の僧伽（仏僧たち）が春から夏にかけて約三カ月に及ぶ雨期のあいだ、外出が不便になり、また外出すると草木の若芽を踏みつけたり、虫類を殺傷する怖れがあるので、外出を避けて一カ所に定住し修行に専念することであると説明される。

夏期は植物と仏僧のそれぞれが、その可能性を発揮し力を蓄えるときである。そして秋の始まり、つまり陰暦の七月十五日の頃に、これら（仏僧と植物）の力が解放され、社会によって取り入れられるのである。

お盆の時期において、農業の豊穰性と僧院の活力性（宗教性）とが結合するのだ。

他方、中国の農家族の生活にあつては、古来、死（先祖）霊を祀りその守護の下に農業の豊穰と多産を目指すのが常であった。ちょうど七月の半ば頃は農作物の成熟期にあたり、死（先祖）霊への感謝祭を行う時でもある。



山岸弘文老師 インタビュー

お盆は仏に 法食を施す 大祭典供養

お盆の意義について、 家庭教育のことなど

聞き手 藤木隆宣

山岸弘文 (やまぎし・こうぶん)

プロフィール
昭和15年1月1日、群馬県泰寧寺にて生れる。駒澤大学仏教学部禅学科卒。昭和37年大本山總持寺本山僧堂に安居。平成19年11月～24年1月大本山總持寺副監院。現在泰寧寺住職。

暦によるものと新暦に行うものとあり、同じ地域内にもヴァリエーションがあるようだが、東北の太平洋沿岸地域は概して八月盆が多いようである。

お盆の期間は八月十三日から十六日までとするところが多い。この四日間に仏僧(住職と弟子たち)は檀家を訪ねて精霊棚の精霊に棚経を誦誦する。

棚経をした仏僧には応分の布施(現金)が渡されるが、その額が多いほど功德があると檀家の人たちは考えていたようだ。この考えは『盂蘭盆経』の説くところと一致するのではなかろうか。

私が育った気仙沼市(當時は町)では、お盆の時期になると出稼ぎで他地域に行っていた人たちが家に戻り、食べべなれた食事を摂り、数日間故郷の人に成りきるのであった。生家の人たちにとっては、出稼ぎの人が土産にもつてくる品を頂くのが大きな楽しみであったようだ。

昭和一〇年前後の東北の田舎は、今日と比べると驚くほど貧しかった。私が育った寺の周辺の家々はほとんどが農家であったが、家の次三男の多くは都市部や他地域に出稼ぎに行っており、遠く満州(現中国東北部)まで出かけた人々もいた。

その人たちが帰省すると必ずお墓参りをし、お寺に寄つて挨拶するのを常だった。その人たちが語る外地の話は、六、七歳の子供にとってもたいへん興味深いものであった。

現在この国のお盆は、陰



とくに匪族とか馬賊と呼ば

る人たちに襲われ、命からがら逃げだした話など、今になっても忘れえないものである。

東北地方も冬は寒いが、その人たちが語る満州の冬の気温は零下三〇度とか四〇度ということで、想像を絶する寒さであったようである。

そのことは当時大人たちが唄っていた歌からも偲ばれた。歌の名はもう忘却の彼方にあるが、その内容は部分的に憶えている。

「またも雪空 夜風の寒さ 遠い満州が エエエー 満州が気にかかる」というもので曲は哀愁に満ちみちていた。

わが思い出のお盆

私が物心がついて大人たちの話に分かるようになったのは五、六歳の頃ではなかったろうか。いまでも記憶に残っているのは、「盆がくる。忙しくなる」という祖父の言葉

であった。

その頃は八月盆であったから、祖父の言う「ボンガクル……」は七月末頃ではなかったかと思う。

祖父の言葉が発せられると、小僧さんたちもお姉さん(女中さんと呼んでいた)たちも一斉に動きたした。本堂や庫裡の大掃除、庭や参道の草取り、須弥壇の飾りつけ、歴代住職の墓の掃除、そして盆棚の組み立てなど、寺の住人すべてが活発に動いた。幼児は私一人であったが「草むしり」の手伝いをしてお姉さんたちから褒められるのがとても嬉しかった。

お盆の月には檀家の人たちも各自の墓を掃除にやってきた。その折、採れたての野菜や果物が「少しばかりだけれんとも(けれども)」と言いなながら寺に届けられた。

寺の盆棚は本堂の玄関のところに組み立てられ、最上段には「三界万霊等」と書かれた大牌が置かれ、四方には四

六百五十回忌を 鶴見の町ぐるみの 行事に

藤木 ご本山(總持寺)から下られて、もう何年ぐらいになられますか？

山岸 何年でしょう、平成二十四年の一月だったから、五年目に入ったところです。

藤木 そうですか。ご本山の生活はいかがでしたか？

山岸 いい修行になりました。本当にまじめな話、あそこでなければ経験できない役寮としての日常というか、大きいものがありましたね。

藤木 修行僧が来ますから、この人たちみんなを背負っていくということですね。迎えたり送られたり、そういうこともあるでしょうし、ああいうお立場でないときけないご経験というか、そういう意味では大仕事ですね。

山岸 ああいうマンモス道場ですから、われわれ地方の寺院の住職をやっているなんていうと、想像もつかない、思ってもみないようなことに出くわすんですね。えらいことが起こる。地方のこんなところと比べれば、目がくるくる回ったってまだ収まらない。

藤木 曹洞宗のご本山であり、修行道場でもありますし、大きな檀家寺でもあるという、そういうところにいるいろいろなことが起こるのでしょうか。今度の峨山禪師六百五十回忌は大成に終わられたとのこと。

山岸 あれは今回、地元の鶴見の町の行事というふうに持

本の竹が立てられ、四方に張られた紐にはお盆旗と称する五色の紙旗が吊るされた。各段には大皿に山盛りになされた野の幸、山の幸が並べられた。普段とは大きく異なる寺の佇いに、心賑わい興奮したことは忘れられない。

お盆には祖父も小僧さんたちも棚経に檀家を廻ったが、いつの頃からか私も一緒に廻った。お檀家さんから「可愛いお坊さん」と言葉をかけられると何だか偉くなったような気がしたものである。

そのうち何歳頃のことであつたか定かではないが、町の子供たちが私に付きまとい歩き、お経を上げていく私の背後で「坊さん坊さんただ儲け」と囁き立てるのを耳にして、大変なショックを受けたことがある。

寺に戻ってからそのことは口に出せなかった。この屈辱感を克服するには、かなりの時間を要したように思う。私のほかにも同じような体験を持った寺の子が少なくないと思うが、今ではその種の感覚をもつ必要は全くなかったと反省している。のちに宗教学や人類学を学ぶようになってから、「死者(先祖)を弔うこと」の社会・文化的意味を知ったからである。

人類が死者を弔い始めたのは、約七万年前とされている。

一九五〇年代にイラクのシャニダール地域の洞窟内に置かれた遺体には数種の

花が供えられていたのが発見され、それが約七万年前のことだと推定されたのである(アルレット ルロア・ゲーラン『シャニダールのネアンデルタール人四号』)

人類が猿類と根本的に異なるのは、人類が死者を弔い、葬儀を営むことであつたのである。人間なるもの「人類の誕生であり、「宗教」という文化の成立である。

死者(先祖)を崇拝し、棚経を読むことは人間であることの証左そのものであると言える。逆に言えば死者(先祖)を尊ばない人間は非人間的であるとき言いえよう。「ただ儲け」など、とんでもない誤解である。今日、社会のあちこちで非人間的な行動が見られる。皆が心配しているが、どうすればよいのかの方向が見つからないのが実情だ。今こそ宗教(仏教)の出番である。お盆の機会に「死者(先祖)と自分」との「浅からざる関係」を説きかつ見直すのではないか。

「おどま盆ぎり盆ぎり 盆から先やおらんど 盆が早よ来りや 早よもどる」(五木の子守唄)



残したい お盆の風習

新盆見舞い・百八燈

藤木 今日はお盆をテーマに話をうかがいたいと思っておりましたが、まずご当地のお盆の特色といったところから。

山岸 とくに取り立てての特色はありませんけれども、ここは以前、養蚕業が盛んでしたからその農繁期の関係で、九月の三日、四日、五日のお盆でした。それがだんだん経ちまして、八月の二十三日盆になって、今現在は八月十三日という、ほぼ全国並みのいわゆる八月十三日盆になっております。そんな歴史がございます。

また、これも全国で同じような風習があるかと思うんですが、この地域の皆さんの新盆見舞いというのがございます。今年新盆を迎えたお宅に、盆の十四日にお伺いして、新





山岸 このお寺では、お盆の期間中には当然そういうお経を読んで供養しております。一方、お檀家さんの方々はお盆にはお寺参りに来られて、お寺の施食棚にお参りされる。その供養のお礼として、お盆礼とか盆供とか地域によつて名称はいろいろありますが、盆のお布施を下さるわけですね。

藤木 そしてお墓参りとなります。これは全国の方々のお寺さん

教育の原点は墓地の掃除にあり

それはコカ・コーラだけじゃない。盆棚というのはまさに清涼殿です。夏の暑さ極まる折から、少しでも涼しく、居心地のよいように、今でいえばクーラーを付けてお部屋へお迎えする。そのために竹を四隅に、そして杉の葉などを下げて、涼しく、居心地よくというおもてなし、接待の気配り。そういう客間、これが盆棚、精霊棚だと思っていま

山岸 これは家庭にある仏壇のお参りも大事ですけど、お墓参りはまた格別の感がございます。墓地までの道中、その風景を見ながら墓参りをする。そういう上で大事なものは、子どもと共に行くことです。子どもさんがいなければ別ですが、お子さんがいたら一緒に、一緒に一緒に掃除を。一緒に掃除をする。これが一番大事なこと、子どもを育てる、教育の原点だと思

います。子どもの教育に関連することとは後でも少し触れてみたいと思うんですが、お墓参りというのは単にお墓の前に参るだけでなく、それに伴つてまずは墓地の掃除をする。これもできれば子どもと一緒に、教えながらやっていくことが大事です。家の人がそういうことをやっていけば、子どもはこの様子を見ていて自然に覚える。やがて代が変わっても、そのしきたりは続いていくわけです。これは全国の方々のお寺さん

山岸 このことは行持の継続、いわゆる相承ということだと思いますが、行持を続けていくところにそのことが生きてきます。おっしゃる通りに若い人にも盆行持に参加してほしい理由はいえ、結局今

藤木 大切なご指摘だと思います。ありがとうございます。教育ということでは、檀家の若い人たちにも行持に参加してほしいですね。

で似たようなことがあると思います。盆棚のしきたりの一つになる。そして、しきたりであると同時に、これは供養なのだということ、これは大事ななことかなと思つています。仏の供養、これは当たり前に分かっていたこと、このように、だからといって軽く受け流さず、どうぞひとつ盆供養という重みを真剣にとらえてほしい。それが信仰であり、宗教であり、仏道なのだと思

藤木 昨今の家族というものを考えますと、実家から遠く離れて暮らして、お盆といつてもなかなか墓参りに帰れない。そんな環境にいる人も決して少なくないと思いま

山岸 そうなると、これは盆棚に先祖代々のお位牌を仏壇から出してお飾りし、お盆のご供養をする、これが普通行われていることですが、もし実家に帰れずそれができないとすれば、その気持ちで実家の仏さんに思いを巡らせて、お盆の迎え方としてどんなことができるでしょうか。

藤木 そうですね、これは盆棚に先祖代々のお位牌を仏壇から出してお飾りし、お盆のご供養をする、これが普通行われていることですが、もし実家に帰れずそれができないとすれば、その気持ちで実家の仏さんに思いを巡らせて、お盆の迎え方としてどんなことができるでしょうか。

山岸 そうなると、これは盆棚に先祖代々のお位牌を仏壇から出してお飾りし、お盆のご供養をする、これが普通行われていることですが、もし実家に帰れずそれができないとすれば、その気持ちで実家の仏さんに思いを巡らせて、お盆の迎え方としてどんなことができるでしょうか。

藤木 そう思います。ね。一時期、曹洞宗でも釈迦牟尼仏奉賛会というのがあって、あの運動で新しい仏像が随分お檀家に入つたのではないでしようか。同じようにある意味で曹洞宗の運動として、宗務庁なりが音頭をとり菩提寺の住職たちに協賛してもらつて、若い世帯に仏壇をと、こういうことができると思います。何か運動をしていかないと、実際になかなか広がっていくということがあります。

山岸 その家庭で人が亡くなった、仏さんがきたからというだけでなく、所帯を持つたら仏壇を、これは大きな宗教運動だと思つてい



っているというものでありませんが、昔は結構多かったものと思

藤木 それは大変珍しい風習だと思います。門火をたき、施餓鬼旗を飾る大祭典供養

山岸 それから、ここ須川宿はお盆の門火が見事です。ここは高崎から新潟へ抜ける三国街道の宿場町で、越後の大名や佐渡奉行、関八州取締出役などがこの街道を利用したといわれる。この宿場中が八月十四、十五日の夕方、一斉に門火をたきます。

藤木 門火というのは、家の門口でたく火という意味ですね。

山岸 そうですね。お盆の夕暮れの門火、先祖の御霊の火祭といった趣きがあります。思



藤木 百八というのはやはり煩悩に由来する数でしょうか。

山岸 そうですね。その地域の人たちの努力が要求されるでしょうが、そうした風習が

藤木 そうですね。仏さんに山海の珍味、飲食食物をお供えし、読経して法食を振る舞

山岸 そうですね。仏さんに山海の珍味、飲食食物をお供えし、読経して法食を振る舞

藤木 精霊のしよりよう。山岸 いえ、清らかな涼しい



藤木 なるほど、五つあるから五供養なんですね。
山岸 一つずつあげていきますと、まずお香、良き香りの焚き物ということです。この線香ですが、できればお正月の三が日とか春、秋のお彼岸のある日はお盆とか、その仏さんのご命日とか、そういうときには、もしも許せるならば普段の、毎朝使うお線香とは違った、いいお香を焚いてい

ただ、これはやっぱり私は大事なことでと思うんです。日ごろの晩酌では、やれ焼酎だ何だといっている、時にはうまい酒を飲みたい、大吟醸のおいしいやつをと、ということもあるように、お盆のときなどには仏さんにもいいお線香をあげたいということ。いいお線香というのは自然香木を材料にして作った、お値段も高うなりますけれども、

それはそれとして許せる範囲で、上等のお香をせめて正月やお盆やお彼岸やご命日にはいいものを使っていたきたい。これはお香に関して余計事ですけども。
お香の次、二番目はお花です。花を飾って仏位を荘厳する。三番目は燈燭、お明かり。併せて、仏の知恵の光ですね。私たちが日ごろの暮らしでも、暗いところははじめして嫌です。やっぱり明るくきれいな、感じのいい所がいい。お仏壇もお明かりをつけて、そして仏様の生前のお人柄をそこに現していただく。
四番目、浄水、お水ですね。菜っ葉も大根も、庭木も山の木も、鳥も魚も動物も虫けらも、無論人間も、ありとあらゆる命あるものは水がないとい

うと生きていきません。そこで四番目に、きれいなお水を仏に供養する。五番目は飲食物、食べ物。ご飯を筆頭にしてお菓子、果物、いろいろある、飲み物の代表はお茶です。
こういう香、花、燈燭、浄水、飲食という五種類の品々をお供えして、存命でそこにおわしますのがごとくにお仕える、これが供養ということだと思っています。

宗教とは、自分で自分を真つすぐにする、そういう教えでございします。自分で自分を真つすぐにする教え、これを坐禅といえましょう。坐禅という仏行が自分を真つすぐにしてくれる。足を組み、手を組み、背骨を真つすぐに身を整え、吸って吐いての一息、一息を丁寧に座禅する。どうぞお仏壇の前で背骨を伸ばしてお線香を上げ、鐘を鳴らし、チーンと鐘の音が鳴り止むまでせめて合掌し、朝のお参りを心掛けていただく。これができれば大変いいと思います。

これは例の宮崎奕保禪師さんがしよつちゅう、口を酸っぱくして言っておられたことですけれども、せめて鐘の音が鳴り止むまで背筋を伸ばし

夢多き 死後の世界へ向け 生前から手掛ける
山岸 なお、ご参考までに申しておきますと、この五つの中で香と花とお茶、この三つは日本文化の発展していく中で香道、華道、茶道としてそ

た、と童話は同じ話を何回も何回も繰り返して話しますね。この繰り返しの教育が幼時教育で、これが家庭教育の原点だと思ふ。そして人を育てる原点は家庭教育であり、宗教教育だと、そう思っています。宗教といつても、特別にどうのこうのとこだわるものでなく、ごく普通の生活の中でのいう宗教的なもの、それが宗教教育になるのだと思ふ。だから、ぜひ私は世のお父さん、お母さんには、身近にあるものをとらえて物語作家、童話作家になったつもりで、子どもに話を聞かせてやってほしい。これほどいい先生はいないと思います。自分のうちにいるわけですから。世のお父さん、お母さんはみんな先生。米をとぎながら、菜っ葉を切りながら、みんな家庭教師。そういう細やかな家庭教育が、最近やつぱりなくなつてきています。何か子ども

の非行やら、大人の非行やらがしよつちゅうニュースになつておりますけれども。
藤木 殺人事件が絶えることはありませんしね。
山岸 これはぜひ、そういう家庭の根つこというか、身近なところにいる人をはせて、ぜひやってみてほしい、そんな気がしてなりません。大人はみんな先生、こういうことをみんなで自覚し、意識し、みんなで唱えていければいいなということですね。

藤木 これもまた、大切なご提案だと思ひます。
山岸 お墓参りに関連して、ちよつと思つたわけですね。

藤木 先ほど、教育問題についてご提言がありとのことでしたが、それはどういうことですか。
山岸 これは故人曰くということになりますけれど、目で見せて、口で聞かせて、してみせて、教えてやらねば人は育たぬ。こういう教えがあります。ですから、極力行持には子どもを連れていく。訳の分からない小さいときから連れていく。三つ子の魂百までもと言いますが、小さいとき幼稚園児くらいのときが、子どもは子どもなりに興味もあるし、吸い取り紙のようにいろいろなものを知識として吸収できると思います。ですから、あの時期と一緒に連れていって、参加させ体験させる。さつきの墓参りもそうですが、体験させることで、子どもはどんどん理解していきます。だから幼時教育、家庭教育がいかに大事かということ。そこで、私は思うんですけれども、どこの家庭にも家



庭教師がいます。というのは、世の父母、親はみんな家庭教師なんです。
藤木 そのとおりですね。うあらねばいけません。山岸 教員免許がなくても、大学を出ていなくても、親はみんな家庭教師です。食事のとり方、箸の持ち方、お座りの仕方、お客さまが来たときのごあいさつの仕方、道を歩きながら見かける草花の名前、

それを教えるのはみんな親です。あそこの神社には神様をお祀りしてある、神様は仏様と同じで、いいこと悪いことをみんな見ているんだよ、だから悪いことはしちゃいけないよ、いいことをするんだよ。こういう話を折に触れて話してやる。繰り返して聞かせるわけです。
昔々あるところに、おじいさんとおばあさんがおりました、と童話は同じ話を何回も何回も繰り返して話しますね。この繰り返しの教育が幼時教育で、これが家庭教育の原点だと思ふ。そして人を育てる原点は家庭教育であり、宗教教育だと、そう思っています。宗教といつても、特別にどうのこうのとこだわるものでなく、ごく普通の生活の中でのいう宗教的なもの、それが宗教教育になるのだと思ふ。だから、ぜひ私は世のお父さん、お母さんには、身近にあるものをとらえて物語作家、童話作家になったつもりで、子どもに話を聞かせてやってほしい。これほどいい先生はいないと思います。自分のうちにいるわけですから。世のお父さん、お母さんはみんな先生。米をとぎながら、菜っ葉を切りながら、みんな家庭教師。そういう細やかな家庭教育が、最近やつぱりなくなつてきています。何か子ども

の非行やら、大人の非行やらがしよつちゅうニュースになつておりますけれども。
藤木 殺人事件が絶えることはありませんしね。
山岸 これはぜひ、そういう家庭の根つこというか、身近なところにいる人をはせて、ぜひやってみてほしい、そんな気がしてなりません。大人はみんな先生、こういうことをみんなで自覚し、意識し、みんなで唱えていければいいなということですね。

教育の原点は家庭、親はみんな家庭教師

た、と童話は同じ話を何回も何回も繰り返して話しますね。この繰り返しの教育が幼時教育で、これが家庭教育の原点だと思ふ。そして人を育てる原点は家庭教育であり、宗教教育だと、そう思っています。宗教といつても、特別にどうのこうのとこだわるものでなく、ごく普通の生活の中でのいう宗教的なもの、それが宗教教育になるのだと思ふ。だから、ぜひ私は世のお父さん、お母さんには、身近にあるものをとらえて物語作家、童話作家になったつもりで、子どもに話を聞かせてやってほしい。これほどいい先生はいないと思います。自分のうちにいるわけですから。世のお父さん、お母さんはみんな先生。米をとぎながら、菜っ葉を切りながら、みんな家庭教師。そういう細やかな家庭教育が、最近やつぱりなくなつてきています。何か子ども

の非行やら、大人の非行やらがしよつちゅうニュースになつておりますけれども。
藤木 殺人事件が絶えることはありませんしね。
山岸 これはぜひ、そういう家庭の根つこというか、身近なところにいる人をはせて、ぜひやってみてほしい、そんな気がしてなりません。大人はみんな先生、こういうことをみんなで自覚し、意識し、みんなで唱えていければいいなということですね。

た、と童話は同じ話を何回も何回も繰り返して話しますね。この繰り返しの教育が幼時教育で、これが家庭教育の原点だと思ふ。そして人を育てる原点は家庭教育であり、宗教教育だと、そう思っています。宗教といつても、特別にどうのこうのとこだわるものでなく、ごく普通の生活の中でのいう宗教的なもの、それが宗教教育になるのだと思ふ。だから、ぜひ私は世のお父さん、お母さんには、身近にあるものをとらえて物語作家、童話作家になったつもりで、子どもに話を聞かせてやってほしい。これほどいい先生はいないと思います。自分のうちにいるわけですから。世のお父さん、お母さんはみんな先生。米をとぎながら、菜っ葉を切りながら、みんな家庭教師。そういう細やかな家庭教育が、最近やつぱりなくなつてきています。何か子ども

の非行やら、大人の非行やらがしよつちゅうニュースになつておりますけれども。
藤木 殺人事件が絶えることはありませんしね。
山岸 これはぜひ、そういう家庭の根つこというか、身近なところにいる人をはせて、ぜひやってみてほしい、そんな気がしてなりません。大人はみんな先生、こういうことをみんなで自覚し、意識し、みんなで唱えていければいいなということですね。

その上で供養ということですが、これは言葉を変えて言えば、そこに存命でおわしますが、そこにごとくにお仕える、これが供養ということだと思ふんです。供養を丁寧に言葉でいうと、どなたもみんな「ご供養」と、こういうと思いますけれども、この「ご」を数字の「五」に置き換えて頭の中へ入れてもらう。そうすると大変分かりやすいと思うんです。なぜ数字の五に置き換えるかというと、お供えする品々が基本的に五種類あるということです。

発行所: 仏教企画
発売元: 佼成出版社
定 価: 1,400円(税別)

『修証義』解説

道元禅師に学ぶ人間の道

丸山劫外

丸山劫外 『修証義』解説
道元禅師に学ぶ人間の道

すべての人に向けて、いかに生きていくかを説く『修証義』。

お申込みは P.8 の 仏教企画まで

総 序 仏法に出会えた幸せ

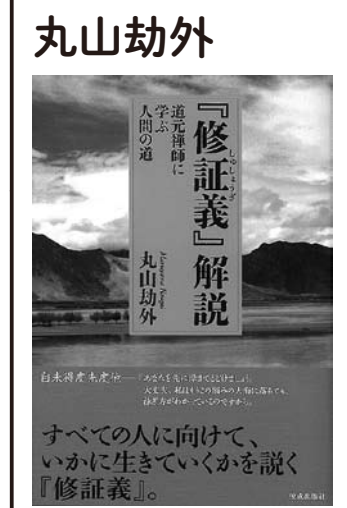
懺悔滅罪 広々とした仏の御前に

受戒入位 仏の灯りに照らされて

發願利生 とともに手をたずさえて

行持報恩 あなたもやがて仏に

四六版 193 ページ



お申込みは P.8 の 仏教企画まで

写真撮影 生沼宏元

仏教企画通信

ご支援寺院名
H28.1.22～5.1

所在地	寺院名(個人名)	金額
埼玉県	龍澤寺	5,000
北海道	古江光明寺	10,000
長崎県	傳法寺	5,000
合 計		20,000

手 ま り 学 園

寄附者御芳名
H28.1.22～5.1

所在地	寺院名(個人名)	金額
東京都	小川 匡夫	50,000
神奈川県	甘利 弘子	3,000
神奈川県	工藤 順子	2,000
東京都	大田 美和	20,000
神奈川県	青木 義次	5,000
北海道	大禅寺	10,000
青森県	大乘寺	10,000
愛知県	修善寺	10,000
岩手県	長福寺	10,000
山形県	長應寺	10,000
静岡県	山内 常正	30,000
三重県	大蓮寺	10,000
秋田県	正法院	10,000
秋田県	円通寺	5,000
東京都	天寧寺	10,000
神奈川県	青木 義次	5,000
青森県	宝積院	10,000
長崎県	天祐寺	10,000
神奈川県	正観寺	10,000
大阪府	川上 初枝	5,000
埼玉県	吉祥院	20,000
三重県	地藏院	10,000
埼玉県	東光寺	100,000
新潟県	正法寺	4,195
山形県	宗傳寺	5,000
静岡県	宿蘆寺	10,000
長野県	廣澤寺	20,000
福井県	佛性寺	3,000
東京都	山本 峯也	30,000
岩手県	菅生院	5,000
神奈川	宗泉寺	10,000
宮城県	通大寺	20,000
神奈川県	青木 義次	5,000
静岡県	大雲院	3,000
三重県	海岸寺	5,000
神奈川県	青木 義次	5,000
合 計		490,195

(* 部数により割引があります) すべて税別価格です

仏教企画発行の刊行物

『修証義』解説	丸山劫外著	1,400円 ★
『うたい継ごうよ、子守唄』	長田暁二・西館好子共著	1,200円 ★
『まんが問答一期一話』	文 平和宏昭 まんが 垣内敬遠	1,200円 ★
『道元禅より見たる般若心経解説』	長井龍遺著	2,200円
『葬送のしおり』	長井龍遺著	30円
『わが心の釈尊伝』	須田道輝著	1,800円
修証義読本『生老病死』	須田道輝著	500円 ★
『曹洞宗檀信徒經典』	須田道輝解説	300円 ★
曹洞宗檀信徒必読『供養のすべて』	靈元丈法著	140円 ★
曹洞宗檀信徒必読『葬儀のすべて』	靈元丈法著	150円 ★

＊『仏教企画通信』を10部以上購読希望の方は一部100円で頒布致します。
同封はがきの空欄にその旨をお書きください。(消費税、送料別)

お申込み

〒252-0113 神奈川県相模原市緑区谷ヶ原2-9-5-5
TEL: 042-703-8641 FAX: 042-783-0989 Email: fujiki@water.ocn.ne.jp

仏教企画

※ご寺院名後の番号(3桁もしくは4桁)がお客様番号(コード)になります。
お申込みは ①ご寺院名 ②お客様番号 ③電話番号でも可能です。

編集後記

東大大学院、立教大学で哲学を教えておられた内山節先生のお誘いで5月6日から8日まで韓国を訪れた。8日は韓国では「花祭り」の行事があり、釈尊の誕生を祝う提灯があちこちで飾られていた。

目的はタボック共同体支援センター(韓国のマウル「共同体」作りを支援する中間支援組織)国際交流協力事業の「第一回日韓国際シンポジウム 持続可能なコミユニティー作り人、文化、経済」に参加するためだった。

開催場所は韓流スターを多く輩出しているハンヤン大学(漢陽大学安山キャンパス)で開催され、内山先生や神戸大学大学院教授の藤野一夫氏の基調講演があり、日本での地域作りや地元のソウル市立大学・ハンヤン大学などの取り組みが紹介され、約5時間のシンポジウムであった。

翌日はフィールドワークを兼ねてスウラン市(ソウルの近郊都市)のコミュニティ作りの現場を訪れ、地域住民や専門家集団(テドンゲ)との熱い対話に触れて目から鱗の活動ぶりと問題意識の旺盛さに圧倒された。その中であって、韓国の中では活動すればするほど行政とのはざまでの困難さもあるようだった。

日本でも、特に3・11以後、行政と住民との間をつなぐ役目としてのNPO法人などの活躍には目覚ましいものがある。第三者の視点が大切になっていともいえる。これらのことはこれからの寺院運営には欠かせないことだと思っている。私は相模原市の緑区に小庵を建てたく10年ほど前から計画をし、昨年10月に市の開発調整課に開発申請を出した。市からの指導で建てる場所から10メートル範囲にお住いの方々への説明

義務があり、設計者と該当する12軒に説明に回ったところ住民の猛反対にあった。それから6カ月間住民に説明すること5回、様々な質問があり、中には非常に失礼な質問もあったが丁寧に答え、5回目の説明会が行われた4月17日には質問も堂々巡りをしてきたので、6か月間にお聞きした案件を真摯に実行することを約束して話し合いを終わった。

反対理由は住民のお寺に対するイメージは葬儀をする施設になっていて、生活空間に近いところに宗教施設が建つことへの違和感からのようだ。

その後まもなく開発申請の許可が下りて、現在建築確認申請を出す作業に入っている。

小庵は檀家が一軒もないところからの出発になるので、お寺をどのようなコミユニティーの場にするのか建ててからが正念場になる。

ご支援口座名 (郵便局扱いです)

社会福祉法人**輝雲会**(手まり学園用)
00280-0-115818

仏教企画(仏教企画通信用)
00160-5-10996